

中本さん自筆の琉歌について

法政大学沖縄文化研究所

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

18-19

(発行年 / Year)

1995-02-24

中本さん自筆の琉歌について

この自筆の琉歌のコピーは、琉球大学の高良倉吉さんから昨年の11月下旬に送っていただいたものである。高良さんのお手紙には次のことが書いてありました。

先月上旬ドイツに行った際、ベルリン在住の仲田比呂子さんという方に色々お世話になりました。県立芸大の祝嶺先生の友人なのですが、仲田さんの亡き父親が伊是名出身の有名な教育家であったこともあり、3名でボンで少しく話す機会があったのです。

話が中本先生のこと及び、ウイーン大学留学中にベルリンの仲田さん宅（ご主人のドイツ人は動物学者とのこと）まで来られ、家族ぐるみで親しく交流する機会があったのだそうです。私が「残念ながら、中本先生はなくなりました」と言うと、このことを知らなかったらしく、涙を浮かべながら「あんなに、すばらしい先生が」と絶句しておられました。とても尊敬していたのだと感じました。

その仲田さんが沖縄で開催された「うないフェスティバル」にアドバイザーとして出席するため帰郷しており、ドイツでのお礼の意味で「福家」で琉球料理を御馳走したのですが、その時、私に同封のものを預けたのです。ボンで私が、比嘉実先生を中心に中本先生の追悼集が編集されている、と言ったものですから、何かの参考になるのではないかと持参したようです。「お役に立つのでしたら使っていただき、もし不用でしたらボツにして下さって結構です」とのことです。私から比嘉先生に届けますから、と約束した訳なのです。中本先生が仲田さん宅のゲストノートに記帳したもののコピーです。

その後高良さんのお手紙にはドイツの仲田さんの住所と中本さんの琉歌について「いかにも中本さんらしい率直さが滲み出ており、好感の持てる作です」と短い感想が添え書きされていました。つづられた短いコメントから仲田さん、高良さんの中本先生に対する思いが伝わってきて感激しました。お二人のご協力に心から感謝いたします。ありがとうございます。

ベルリンに訪れし仲田比呂子（興武ナヒー作。ナヒーは高良倉吉）
 ○ベルリンの雪景や 雪景や 高良倉吉の
 壁造て 閉ぢす 心舞ぬ 國の
 ○ベルリンの冬や 心舞ぬ 凍り
 雪景や 高良倉吉の 故に
 ○高良倉吉の 天丈に 立ちよす
 姿とどめとし まも知らぬ
 ○ウララの國や 陸國とやゆる
 いと 野と川と 海や 高良倉吉
 (註) ウララとはヨーロッパ全体をさす琉球語で、
 ○汗流の女 肝強し 有ゆき 名高し
 高良倉吉の 外回うこい 子三人 高良倉吉
 ○綾羽の 解でぐわ 親羽の 暖くさ
 高良倉吉の 力なゆす
 私かんの一端も琉歌が能くかきました。琉歌も中本先生から
 高良倉吉の 高良倉吉の Altes Gutede 10